

「霰 (あられ) の観察 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

雪

文 部 省 唱 歌
中 野 正 以 編 曲



この文部省唱歌は、日本人なら知らない人はいないだろう。私も子どもの頃、雪が降ってくると、思わずこの歌を口ずさんだものだ。しかし、私は子どもの頃、「雪は知ってるけど、あられって何だろう？」といつも思っていた。一度祖父に聞いたら、「お茶漬けに入っている、小さなつぶだよ」と、とぼけた答えだった。重要なのは「あられや こんこ」の「こんこ」である。あられは、本当に「こんこ」と音をたてて降る。



冬休みに、テラスにコンコンものが当たる音がした。外へ出てみると、何か降っている。雪にしては、降下

速度が速いし、雨でもない。雹にしては粒が小さい。一体何が降ってきたというのか？



テラスに落ちていたのは、小さな氷の粒だった。どうやら「霰 (あられ)」のようだ。まさしく「コンコ」と音をたてて降っている。雹のように透明な粒ではなく、粒もずっと小さい。

雹 (ひょう) と霰 (あられ) はよく混同されるが、その正式な区別は「大きさ」だけである。直径が 5mm 以上のものが「雹」、5mm 未満のものを「霰」と呼ぶ。しかし、実際には雹と霰はでき方が少しちがう。



雹は、通常発達した積乱雲の内部で形成される。積乱雲の中の上昇気流と重力による下降を何度も繰り返して、中心から成長するので、できた結晶は同心円状に「年輪」のような構造を持つ。従って雹の正体は「氷の粒」である。このようにしてできた氷晶のうち、直径が 5mm に満たないものも「霰」と呼ぶが、この霰は雹と同じように透明な氷の粒で、正確には「氷霰 (こおりあられ)」と呼ばれている。